

災害発生時の共助を目的とした防災名簿づくり



【大須学区】

■世帯数：4,980 世帯

■人 □：7,590 人

■面 積：0.690 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・大規模災害発生時のほか、地域の防災対策（援助支援体制、非常食料及び救助資機材の確保等）に活用する「防災名簿づくり」を行っている。約 2,000 世帯が名簿に登録されている。
- ・全区政協力委員を招集し、区政協力委員は災害対策委員を兼任していることを再認識するとともに、個人情報とその取扱いに対する理解と協力を要請。
- ・個人情報保護を前提に、名簿の記載と提出は住民の自由とした。用紙の配布・収集は組長に依頼するが、封印した名簿を開封せずそのまま区政協力委員に託すものとした。名簿は管理・運営規定に基づき、委員長と区政協力委員の手元で厳重に管理している。
- ・名簿用紙と併せて、災害時の安否確認や避難誘導等への支援に対する申込書を回収する。

【住民へのPR方法】

組長および区政協力委員が情報保護を大前提に名簿を配布・回収

【アピールポイント】

「防災対策名簿」による安否確認、共助意識の高揚で素早い救助活動が可能に。「コピー禁止で名簿の原本は、2部とも世帯主が自書し封印」とした厳格な名簿の取扱基準が、名簿作成への理解と安心感に大きく作用した。

2 きっかけ、背景

東日本大震災を契機として、災害時の共助体制づくりの機運が高まった。従前の災害対策名簿が廃止されて以後、区政協力委員でさえ町内の世帯人員をつかみきれず、災害が発生した時の救助活動に支障をきたすと考えたため。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、委員長他 48 町内会の組長 225 人 計約 274 人

4 実施のスケジュール

H23 年 5 月 執行部役員で名簿の様式、記載事項、取扱規約を決定

6 月 全委員（臨時総会）で作成の協力依頼と取扱いを説明

10 月 用紙 5,000 枚が完成。町内の必要部数を配布

11 月 記入された名簿を組長が封印状態で回収し区政協力委員へ渡す

12 月

- ・区政協力委員が開封し、一覧表 2 部を作成
- ・配布されたファイルに綴じ込み一冊を手元に、一冊を地区本部（委員長）に提出

毎年 10 月 世帯主による名簿の確認（追加、削除）・更新

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、交流の深まり。住民間の連帯意識の高揚、学区の合言葉「ふれあいと絆で結ぶ輪・学区の和」が一層身近なものとなった。

(2) 苦労した点

参加者の確保、理解を得ること。名簿の対象世帯は、基本的には学区連絡協議会の学区費を負担する世帯だが、未加入世帯でも希望すれば認め、学区の付き合いも勧誘したい。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、活動資金の確保が課題。災害対策名簿をもとに、学区の災害マップを作ることにつなげたい。制作に携わる人材が乏しい。

(4) メッセージ・アドバイス

個人情報保護が優先し名簿の作成が難しい時代。住民に命が大切なプライバシーの保護が大切かを問いかけ、名簿整備の必要性を理解させることが重要。